

神奈川県金融経済概況（2016年11月）

I. 概況

神奈川県の景気は、回復の動きがみられつつある。

すなわち、企業部門をみると、生産は持ち直しの動きが続いている。輸出は減少している。設備投資は一段と増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善しているが、個人消費は弱い動きがみられる。この間、住宅投資は増加している一方、公共投資は減少している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 持ち直しの動きが続いている。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低迷しているものの、国内向けトラックが堅調なほか、国内向け乗用車も新車投入効果により増加しているなど、持ち直している。
- ・ 素材関連は、化粧品や洗剤が増加しているものの、石油・石炭などが減少しており、横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器の生産規模の縮小の影響がみられるものの、電子部品・デバイスなどが下げ止まりつつあるほか、外需向け基地局通信装置が増加しているなど、持ち直しの動きがみられる。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置が増加しているものの、はん用機械類が引き続き低調に推移しているほか、外需向け工作機械が減少していることから、弱めの動きとなっている。

(2) 輸出： 減少している。

- ・ アジア・中東やヨーロッパ向けの自動車を中心に、減少している。

(3) 設備投資： 一段と増加している。

- ・ 16/9月短観における、16年度の設備投資は、前回調査比小幅下方修正となったものの、既存設備の維持・更新に加えて、研究・開発投資や業容拡大を企図した能増投資、工場・営業所の増設などが製造業を中心にみられており、全産業でも前年を2割程度上回る計画となっている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 9月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.30倍と、統計が公表されている05/2月以降、最も高い水準を更新した。また、8月の現金給与総額は前年比+0.2%となった。

(5) 個人消費： 弱い動きがみられる。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が引き続き好調な中、一部の衣料品などでは、気温の低下に伴い動意がみられるものの、全体としては、その他の販売が振るわず、弱い動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、足もと弱含んでいる。
- ・ 家電販売額は、パソコンなどの動きが鈍いものの、高機能製品を中心に白物家電やテレビなどが堅調なことに加え、携帯電話では足もと新商品投入効果がみられるなど、全体では下げ止まっている。
- ・ 新車登録台数は、軽乗用車では、小型乗用車との競合激化に加え、燃費データ不正問題の影響もあって、前年を下回っている。もともと、小型・普通乗用車では、ハイブリッド車の需要が堅調な中、新車投入効果から前年を上回っており、全体では下げ止まっている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、総じて堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 増加している。

- ・ 着工ベースで見ると、分譲マンションが減少した一方、分譲戸建て、貸家、持家が増加している。

(7) 公共投資： 減少している。

- ・ 10月の公共工事請負額は、独立行政法人、国などが減少したことから、前年を下回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：8月+1.4%→9月+1.3%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利：8月1.255%→9月1.242%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：8月+2.5%→9月+2.5%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。